## (2) 活力ある地域コミュニティの形成に向けた人材の育成

心豊かでたくましい青少年の育成に努める。

ア　地域活動の実践者の育成
イ　地域活動の指導者、コーディネーターの養成
ウ　地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援

## 生涯学習課

### 学びと活動による地域コミュニティ活性化事業
### （地域で考え行動する公民館機能活性化事業）

**［事業目的及び概要］**

公民館を地域の人財育成の拠点として継続的に機能させ、地域コミュニティの活性化へ向けた人財を育成することを目的として、公民館職員の実践的なスキルアップを図るとともに、地域住民の意識の喚起・涵養と実践力の育成に向けた取組を行う。

**［事業内容及び結果］**

(1) 事業プランの実施（青森県公民館連絡協議会に事業委託）

平成 25 年度に選出された事業プランを、県のモデル実践プランとして各地域で実施した。

・実 施 数　　12 事業プラン（東青２　西北３　中南３　上北２　下北１　三八 1）

| №. | 市町村 | 実行委員会名 | 事業プラン名 |
|---|---|---|---|
| 1 | 青森市 | あおもりハッピーコミュニケーション塾実行委員会 | 地域に広げよう！ハッピーコミュニケーション |
| 2 | 青森市 | 音楽を通した学びと地域の絆づくり事業実行委員会 | 西部ドレミファ・プロジェクト |
| 3 | つがる市 | ＭＡＴＳＵぷろじぇくと実行委員会 | ＭＡＴＳＵぷろじぇくと |
| 4 | 鶴田町 | 鶴田町公民館事業プラン実行委員会 | キャンドルナイトでつながろう in　津軽富士見湖 |
| 5 | 鰺ヶ沢町 | 鰺ヶ沢町公民館事業実行委員会 | 和っとつながれあじがさわ |
| 6 | 黒石市 | 六郷地区振興協議会 | 子ども達に残したい、ふるさとの自然と歴史財産 |
| 7 | 弘前市 | ジャンボおらほのいろはカルタ弘前実行委員会 | ジャンボおらほのいろはカルタ～弘前～ |
| 8 | 弘前市 | 北地区コミュニティ会議 | 津軽藩参勤交代で江戸城へ！！ |
| 9 | 六戸町 | 六戸町地域づくり実行委員会 with かえで組 | ものづくり体験を通して地域住民の交流の和を広げる |
| 10 | 東北町 | 上十三若者ネットワーク「9 根」 | 東北 techno music festival 清水目音夜祭 2014 |
| 11 | 佐井村 | 佐井村中央公民館事業プラン実行委員会 | ちびっ子海賊の佐井村まち探検 |
| 12 | 三戸町 | 三戸町民活性化実行委員会 | 手作りの 11 ぴきのねこによる町民活性化事業 |

・実施期間　　平成 26 年 4 月～平成 27 年 1 月
・助 成 金　　青森県公民館連絡協議会を通じて各実行委員会へ助成金を交付した。
・実施支援　　生涯学習課、県総合社会教育センター及び各教育事務所は、各モデル実践プランの実施にあたり、助言・情報提供等の支援及び各取組へ参加した。

(2) 事業成果の普及

ア　事業成果発表会の開催
・開催日　平成 27 年 2 月 26 日（木）
・会　場　県総合社会教育センター

・参加者　100 名
・内　容　各実行委員会による事業成果報告等
イ　事業成果報告書の作成及び各市町村教育委員会、公民館、関係機関等への配付
ウ　各モデル実践プランの取材・配信及びＤＶＤの配付
(3) 人財育成プログラムの開発
市町村教委、各公民館等において、地域住民対象の研修を行う際に必要となる研修内容やグループワーク手法等をまとめたものを事業成果報告書に掲載し、人財育成に係る講座を運営する際のマニュアルとして利用できるようにした。

**［成果と課題］**

公民館職員の実践的なスキルアップ、地域住民の意識涵養・実践力の育成が図られ、地域の人財育成の拠点としての公民館機能の活性化に結びつけることができた。

今後も継続的に公民館が地域の人財育成の拠点としての役割を持ち、地域づくりをけん引する人財が育成されるとともに、自主・自立のマインドアップが図られ、地域コミュニティの活性化につながることが望まれる。

## 学びと活動による地域コミュニティ活性化事業
## （学校発、地域とのつながり形成事業）

**［事業目的及び概要］**

地域のコミュニティ機能や人財育成機能を充実させ、地域での連携を深め地域ぐるみで子どもを育む活動を推進することを目的に、学校を核として、児童生徒が主体的に地域住民とともに行う活動や、ＰＴＡが地域とのつながりを強化する事業である。

**［事業内容及び結果］**

(1) 子ども発、地域お助けレンジャー事業
ア　進め、地域お助けレンジャー
小中学校のモデル校 12 校において、地域が抱える課題の解決に向けて、児童生徒が地域のために地域住民と共に主体的に活動を行った。

【モデル校】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 小学校： | 青森市立西田沢小学校 | 中泊町立武田小学校 | 弘前市立新和小学校 |
| | 野辺地町立馬門小学校 | むつ市立正津川小学校 | 田子町立清水頭小学校 |
| 中学校： | 青森市立荒川中学校 | つがる市立稲垣中学校 | 弘前市立東目屋中学校 |
| | 東北町立東北東中学校 | 大間町立大間中学校 | 八戸市立江陽中学校 |

イ　地域お助けレンジャー事業の活動紹介
12 校の取組は「子ども発、地域お助けレンジャー新聞」にまとめ 1,000 部発行した。
(2) ＰＴＡ発、コミュニティの力アップ事業
ア　ＰＴＡプラスＣで地域いきいきモデル事業
地域と協働して学習活動や交流活動を行うこと通じて、家庭と地域、学校と地域のつながりを強化するモデル的な取組を12ＰＴＡに委託して実施した。

【実施ＰＴＡ】

| | |
|---|---|
| 今別町立今別小学校ＰＴＡ | 今別町立今別中学校ＰＴＡ |
| つがる市立向陽小学校ＰＴＡ | 鰺ヶ沢町立鰺ヶ沢中学校ＰＴＡ |
| 黒石市立六郷小学校ＰＴＡ | 平川市立碇ヶ関中学校ＰＴＡ |
| 三沢市立古間木小学校ＰＴＡ | 十和田市立大深内中学校ＰＴＡ |
| 大間町立大間小学校ＰＴＡ | 大間町立奥戸中学校ＰＴＡ |
| 八戸市立大久喜小学校ＰＴＡ | 階上町立道仏中学校ＰＴＡ |

イ　ＰＴＡプラスＣの可能性を考えるフォーラム
ＰＴＡ及び地域住民を対象に、ＰＴＣＡをテーマにＰＴＡと地域が連携を図ることの意義について考えるフォーラムを西北・下北・三八の 3 地区で開催した。（平成 25 年度実施：東青・西北・中南の 3 地区）

| | |
|---|---|
| 西北 | 【開催日】10/4(土) 【会場】 五所川原市民学習情報センター 【参加人数】61 名<br>【内容】事例発表（平成 25 年度モデル事業実施ＰＴＡ）<br>五所川原市立いずみ小学校ＰＴＡ 前事務局 藤田 昭彦<br>五所川原市立市浦中学校ＰＴＡ 会長 笹山 和信<br>活動紹介（平成 26 年度モデル事業実施ＰＴＡによる資料発表）<br>つがる市立向陽小学校・鰺ヶ沢町立鰺ヶ沢中学校<br>助言者 弘前大学 特任教授 齋藤 厚<br>講演 「地域ぐるみで子どもを育むには」 弘前大学 特任教授 齋藤 厚 |
| 下北 | 【開催日】 1/30(金) 【会場】大間町立大間小学校 【参加人数】95 名<br>【内容】事例発表<br>大間町立大間小学校ＰＴＡ 会長 伊藤 一章<br>大間町立奥戸中学校ＰＴＡ 事務局 二階 幸喜<br>講演 「学力・体力・気力の向上は生活習慣の立て直しから」<br>～一流スポーツ選手・タレント・作家・東大生に学ぶ８つの習慣～<br>東海大学体育学部教授 医学博士 小澤 治夫 |
| 三八 | 【開催日】 8/3(日) 【会場】南部町立町民ホール「楽楽ホール」【参加人数】161 名<br>【内容】講演 「地域ぐるみで子どもを育むには」 弘前大学 特任教授 齋藤 厚<br>事例発表・活動紹介<br>新郷村立西越小学校 教頭 小林 淳<br>八戸市立北稜中学校 教頭 前田 篤志<br>パネルディスカッション パネリスト （上記講師と発表者による） |

ウ　ＰＴＡプラスＣで地域いきいきモデル事業の取組事例紹介

２年間２４ＰＴＡの取組は、「ＰＴＡプラスＣで地域いきいきモデル事業事例集」にまとめ 800 部発行した。

**［成果と課題］**

子ども発、地域お助けレンジャー事業では、一人暮らしの高齢者宅の除排雪活動など、それぞれの地域課題を解決するために活動することで、地域を愛する気持ちやボランティア精神を培うことができた。また、学校と地域との交流が活発に行われたことで、「児童・生徒が地域の方々に認められ自己肯定感が高まったこと」「地域の方々が児童・生徒から元気をもらい喜んでいたこと」「学校がこれまで以上に地域に理解されるようになってきたこと」等の成果があった。

ＰＴＡプラスＣで地域いきいきモデル事業では、ＰＴＡが主体となり、特色ある地域の資源（餅つきや昔遊び、伝統芸能、学区の歴史調査、地域イベント等）を活用した取組、誰もが気軽に取り組めるレクリエーションや地域美化のための奉仕活動、学校での講演会や道徳の授業公開等を活用した取組等を実施したことで、家庭と地域、学校と地域のつながりを強化し、地域コミュニティの活性化につながった。

ＰＴＡプラスＣの可能性を考えるフォーラムでは、ＰＴＡを核にした地域の活性化や学校と地域が連携し、地域ぐるみで子どもたちを育むために必要なことについて考える機会となった。

今後は、多くの学校やＰＴＡにおいて地域とのつながりを形成する取組を実践できるように、県内に配布した新聞及び事例集を活用した取組を啓発していく必要がある。

## 社会教育主事等一般研修

**［事業目的及び概要］**

市町村に派遣されている社会教育主事及び市町村任用の社会教育主事の資質・能力の向上を図ることを目的として、専門的な研修を実施する事業である。

**［事業内容及び結果］**

第１回　5/8（木）　県総合社会教育センター

参加者 23 名　　行政説明、ワークショップ、講義、グループ協議

第２回　10/9（木）～10（金）　県総合社会教育センター

参加者 32 名　　研究協議、講話

第３回　2/24（火）　県総合社会教育センター

参加者 36 名　　講義、演習

［成果と課題］
社会教育主事に実践レポートを作成いただき、社会教育主事どうしが課題を共有し、助言し合いながら、お互いの業務遂行に役立てていた。
今後は市町村の社会教育主事に対する研修となるが、多くの社会教育主事に参加してもらい、「書く」「話す」「聞く」「読む」という省察サイクルを定着させる研修内容にしていく。

## 総合社会教育センター

### パワフルＡＯＭＯＲＩ！創造塾

［事業目的及び概要］
新たな活動者の発掘と育成、仲間づくりの促進やネットワーク(つながり)の形成・強化、活動の活性化を目的として、対象地域を絞り２年間をかけての理論学習や活動実践等の研修を通して、地域づくりに取り組む活動者を育成する事業である。

［事業内容及び結果］
(1) 創造実践コース
津軽地方塾生が地域活動実践「つるたクエスト」を企画・運営することを通して、地域活動に取り組む実践力の向上を図った。
【地域活動実践「つるたクエスト」】
○期　日：11/3(月)
○会　場：鶴田町鶴遊館
○対　象：鶴田町児童約 210 名
○内　容：巨大すごろくに用意された鶴田町の名所、名産品、行事等に関わるクイズを、子ども達が仲間と協力しながら解いていった。

(2) 公開講座
県全域に渡った潜在的ニーズに対応するため公開形式とし、広く参加を呼びかけた。また、創造塾塾生や他のセンター事業関係者、一般参加者も交え、参加者のネットワークの拡大、強化と資質の向上を図った。
【第１回】
○期　日：7/19(土)
○会　場：県総合社会教育センター　第一多目的研修室
○受講者：50 名
○内　容：パネルトーク　テーマ：「想いがあれば地域は動く」
パネリスト：soop！　代表　清水　圭子（青森）
9 根　代表　原田　惇（青森）
復興 girls and boys*　代表　中條　奈菜花・香木　なつみ（岩手）
輪茶プロジェクト　代表　石岡　大輔（秋田）
コーディネーター：増田　由美子　フリーアナウンサー
【第２回】
○期　日：9/20(土)
○会　場：県総合社会教育センター
○受講者：36 名
○内　容：パネルトーク　テーマ：「絆が未来を創る」
パネリスト：Misawa Art Project　代表　田村　宣喜（青森）
ＴＮネットワーク　チーフリーダー　三浦　貴志（青森）
Moonbow　代表　石田　朋子（岩手）
GETUP!PROJECT　代表　金澤　大輔（秋田）
コーディネーター：増田　由美子　フリーアナウンサー
【第３回】
○期　日：1/10(土)
○会　場：県総合社会教育センター
○受講者：57 名
○内　容：基調講演

講演題：「未来の AOMORI を地域から」
講　師：宇都宮大学地域連携教育研究センター教授　廣瀬　隆人
パネルディスカッション
パネリスト：soop！　代表　清水　圭子（青森）
輪茶プロジェクト　代表　石岡　大輔（秋田）
Misawa Art Project　代表　田村　宣喜（青森）
ファシリテーター：宇都宮大学地域連携教育研究センター教授　廣瀬　隆人

**［成果と課題］**

創造実践コースにおいて実施した地域活動実践「つるたクエスト」については、塾生が昨年度実施した活動実践「津軽クエスト」での経験を生かし、計画や準備、運営を円滑に進めることができた。受講生に、実践を通じて地域活動について学んでもらうことは、当センターの支援がなくても独自に活動をする者が出ていることから考えても、非常に有効であった。

公開講座は、青森・秋田・岩手でそれぞれ実践している活動者を招いてのパネルトークであったので、講座参加者からは、地域活動の取組が具体的で分かりやすかったと大変好評を得ることができた。特に、最後の公開講座では、廣瀬教授から地域活動を推進していく上で大切なポイントを分かりやすく解説していただいたので、講座参加者からは自分も地域で活動していきたいという意欲的な感想を多く得ることができた。公開講座開催により、地域活動に関心をもつ県民が多いということと、他の地域でどのような活動があるのかを知りたいと考えている県民が多いことが分かった。また、交流タイムを公開講座３回とも実施したが、交流タイムによる情報交換が新たなネットワークに繋がっていることが確認できた。

次年度からは、県全域に渡った潜在的ニーズに応え、単年度で研修を終えられるよう講座体系を見直して実施したい。

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座

**［事業目的及び概要］**

地域づくりの中核的役割を担う生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上を目的として、地域課題の把握や具体的な解決方法を探るための理論学習、協働を活かした先進的取組事例の分析等の研修や、新任の生涯学習・社会教育関係職員が市町村において活動できるよう、その基礎知識についての研修を行う事業である。

**［事業内容及び結果］**

(1) 基礎研修（初任者研修）

○対象：生涯学習・社会教育関係職員初任者

| 開催日 | 開催場所 | 参加者 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 5/22（木） | 県総合社会教育センター | 34 名 | (1) 県社会教育行政の方針と重点<br>県教育庁生涯学習課職員<br>(2) 生涯学習・社会教育の基礎知識<br>県総合社会教育センター職員<br>(3) 社会教育関係職員と社会教育施設（公民館）の役割について<br>前野辺地町教育長　古田　力也<br>(4) 市町村の生涯学習・社会教育事業に係る情報交換<br>県総合社会教育センター職員 |

(2) スキルアップ研修

ア　中央研修

○対象：生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等

○場所：県総合社会教育センター

| 回数 | 開催日 | 参加人数 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 第１回 | 6/16(月) | 23 名 | 「公共施設とまちづくり」<br>八戸ポータルミュージアムはっち　館長　風張　知子 |
| 第２回 | 8/ 8(金) | 7 名 | 「タブレット端末のセキュリティと初歩的活用例」<br>株式会社ビジネスサービス　小山　康輝 |
| 第３回 | 9/ 8(月) | 25 名 | 「地域を元気にする社会教育」<br>八王子市民活動協議会　理事・事務局長　岩田　博次 |
| 第４回 | 11/6(木) | 22 名 | 「シニアの社会参加活動と学習」<br>桜美林大学　名誉教授　瀬沼　克彰 |

イ　地区研修

○対象：生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等

| 地区 | 開催日 | 開催場所 | 参加人数 | 内容 |
|---|---|---|---|---|
| 下北 | 5/26(月) | むつ市合同庁舎<br>大会議室 | 14 名 | 「地域における公共施設の運営について～機能充実と活用の促進に向けて～」<br>八戸市水産科学館「マリエント」<br>館長　吉井　仁美<br>十和田市現代美術館　館長　藤　浩志 |
| 上北 | 5/29(木) | 六戸町文化ホール | 70 名 | 「新しい地域づくりのための社会教育の役割」～地域コミュニティの活性化と社会教育施設のあり方～<br>八戸市水産科学館「マリエント」<br>館長　吉井　仁美<br>（公社）弘前観光コンベンション協会<br>事務局長　坂本　崇 |
| 中南 | 6/26(木) | 弘前市立中央公民館岩木館 | 70 名 | 「社会教育行政と指定管理者・NPO 等との連携・協働の在り方」<br>アピオあおもり　副館長　小山内　世喜子<br>弘前学院大学　講師　生島　美和 |
| 三八 | 7/ 3(木) | 八戸市福祉公民館 | 23 名 | 「思わず参加したくなる家庭教育関連事業の企画と運営について」<br>青森県立保健大学　教授　中村　由美子 |
| 東青 | 7/16(水) | 県総合社会教育センター | 22 名 | 「社会教育・生涯学習における社会教育施設の役割と地域人材の活用について」<br>プロジェクトおおわに事業協同組合<br>副理事長　相馬　康穫<br>八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館<br>主事兼学芸員　市川　健夫 |
| 西北 | 9/16(火) | 鶴田町国際交流会館 | 21 名 | 「事業評価のあり方について」<br>株式会社カネモト<br>代表取締役社長　野澤　正樹<br>県教育庁教育政策課政策企画グループ<br>主査　畠山　啓介 |

**［成果と課題］**

中央研修では、社会教育施設の有効活用と事業の企画・運営、評価を主なテーマとして講座を実施し、地区研修では、各地区の課題に対応した内容の講座を実施したところ、参加者の満足度は非常に高く好評であった。今後は中央研修と地区研修の位置づけをはっきりさせ、受講者のニーズに合わせた研修内容を継続していく必要がある。

## (3) 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進

ア　関係機関との連携による多様な学習活動の支援
イ　学習成果を生かした社会参加活動の支援

## 生涯学習課

### 県立学校開放事業

［事業目的及び概要］

県民の生涯学習の推進と開かれた学校づくりの促進を目的として、県立学校の有する専門性の高い教育機能を開放する事業である。

［事業内容及び結果］

| 学　校　名 | 期　間 | 日数 | 内　　容 | 受講者数 |
|---|---|---|---|---|
| 県立盲学校 | 7 月 | 2 日 | 点字入門と歩行援助 | 18 名 |
| 八戸盲学校 | 7 月～9 月 | 7 日 | 視聴障害理解入門 | 4 名 |
| 青森聾学校 | 6 月～9 月 | 7 日 | 初歩的な手話学習 | 23 名 |
| 八戸聾学校 | 7 月 | 2 日 | 芸術入門（和太鼓・箏） | 1 名 |
| 青森若葉養護学校 | 7 月～8 月 | 4 日 | iPad によるアニメーション制作 | 5 名 |

［成果と課題］

特別支援学校が有する、より専門性が高い学校機能の開放を目指し、特別支援学校のみの講座開設を実施した。受講者のアンケートによれば、いずれの講座も満足度は高く、県民の多様な学習ニーズに対応している。

東青及び三八地区のみの開催のため、県全域における県民の学習ニーズに応えられるよう、未開催地区での講座開設が課題である。

## 総合社会教育センター

### あおもり県民カレッジ運営業務

［事業目的及び概要］

県民の学習ニーズが多様化・高度化する中、興味・関心の高いテーマについて体系的・継続的に学習し、その学習成果が社会から適切に評価され、学習成果を生かして社会参加できることを目的として、県民の生涯学習を総合的に支援する事業である。

［事業内容及び概要］

(1) あおもり県民カレッジの運営全般

ア　あおもり県民カレッジ連携機関との関係強化
・連携機関登録団体に対し、協力関係の継続を依頼。
※連携機関数：627 機関（体験施設 142 か所を含む）
・訪問による新規連携機関勧誘活動を実施。
・講座開催における協力などを通して、関係強化を推進。

イ　生涯学習支援のネットワーク構築

ウ　事務局の運営（県民カレッジ学生への連絡、連携機関との連絡調整、運営に関わる事務）
※あおもり県民カレッジ学生数　19,085 名（新規 2,435 名）
［教養学習コース　15,503 名（新規 494 名）］
［子どもカレッジコース　3,582 名（新規 1,941 名）］［うちジュニアコース 3,003 名（新規 1,940 名）］

(2) 普及啓発事業

ア　学生募集（ポスターやパンフレットの作成）

・あおもり県民カレッジ＆生涯学習情報紙「てのひら」による募集
・幼稚園、保育所、小学校、老人ホーム、企業、団体への訪問
・連携機関等イベントでの、県民カレッジブース出展による募集

イ　生涯学習フェア 2014 の開催（10/18（土））
・オープニング　ライブパフォーマンス　ボランティア自主講座参加者
・あおもり県民カレッジ認定証交付式
・高校生地域貢献活動紹介
実践発表　青森中央高等学校「青中央読み聞かせ隊の取組と実演」
百石高等学校「おもてなしの心～地域とともに～」
・記念講演「まみしぐ、さがしぐ、あずましぐ」
講師　渋谷　伯龍　川柳作家・津軽弁研究家
・我が社は学校教育サポーター登録事業所等による展示、実演、出前授業　参加事業所数 32 社
・元気！高校生めざせトップランナーによる販売実習体験、木工制作補助体験、展示
・あおもり県民カレッジ連携機関等による講座、実習、体験、展示、センター事業紹介等
※入場者数　1,700 名

ウ　生涯学習ＨＰの作成
・生涯学習情報サイト＜alisinfo.jp＞作成及び随時更新
・連携機関の講座情報の更新
・地域キャンパス講座の情報ページの運用
・「講座アーカイブ」を開設し、講座の様子を YouTube に公開している
※配信数　24 コンテンツ

(3) 学習情報提供・学習相談事業

ア　学習機会情報の収集及び提供
・連携機関に対し新たな講座情報登録を依頼
・連携機関等訪問による講座情報の調査収集

イ　活動機会情報の収集及び提供
・ボランティア相談に対し、受入れ団体の情報を収集、提供

ウ　学習相談の実施
・窓口・電話・FAX・郵便・Ｅメールによる学習相談の受付
※相談数　264 件

エ　県民カレッジ＆生涯学習情報紙「てのひら」の発行
・あおもり県民カレッジ＆生涯学習情報紙「てのひら」発行（年 12 回）

(4) 学習機会提供事業

ア　地域キャンパス講座(県内 6 地区)開催
※開催数　東青 9 回、西北 6 回、中南 7 回、上北 7 回、下北 11 回、三八 6 回
※受講者数　のべ 1,851 名

イ　ボランティア活用支援
・ボランティア講師登録の奨励と自主講座の開催
※講師登録数　82 名
※講座数　106 講座　のべ 2,041 名

ウ　専門講座の開催

(5) 評価サービス及び学習成果の活用支援事業

ア　認定証・奨励証の交付
※認定証交付数
教養学習コース　387 名　子どもカレッジコース　61 名

イ　ボランティア証明書の発行

**［成果と課題］**

学籍状況は自然減や少子高齢化等の影響もあり、教養学習コースの学生数は横ばい状態である。しかし、子どもカレッジの学生数は指定管理者の自主努力により大幅に増加させることができた。また、指定管理者による自主事業は、講師登録数とともに講座参加者数を着実に伸ばしている。なお、地域キャンパス講座については、地域に温度差が見られることから、連携機関等の協力を得ながら、県民の様々な学習要求に応えられる講座の企画・運営を図る必要がある。

## 元気青森人を創造するｅラーニング推進事業

［事業目的及び概要］

自己の生き方や働き方について考えたり人生設計したりするための学習を、県民の誰もがいつでもどこでも手軽にできることを目的として、インターネットによる講座の配信を行う事業である。

［事業内容及び結果］

インターネットによる学習教材の配信（e ラーニング）

| | | |
|---|---|---|
| (1) 元気青森人 PowerUp コンテンツ | 計 123 本 | （アクセス件数：4,299 件） |
| ア　公開講座 | 6 本 | |
| イ　ワンポイントアドバイス | 12 本 | |
| ウ　はたらく心 | 94 本 | |
| エ　関係機関リンク | 11 件 | |
| (2) あおもり学インターネット講座 | 計 44 本 | （アクセス件数：6,804 件） |
| ア　あおもりの自然 | 10 本 | |
| イ　我がふるさとあおもり | 10 本 | |
| ウ　あおもり学特別講座 | 23 本 | |
| エ　青森県の先人 | 1 本 | |
| (3) あおもり子育てネット | 計 83 本 | （アクセス件数：60,229 件） |
| ア　家庭教育支援コンテンツ | 30 本 | |
| イ　家庭教育支援啓発教材 | 6 本 | |
| ウ　センター企画テレビ放送番組 | 20 本 | |
| エ　子育てワンポイントアドバイス | 10 本 | |
| オ　公開講座 | 7 本 | |

［成果と課題］

「あおもり子育てネット」においては家庭教育支援コンテンツの配信数を増やしたことでアクセス件数が増加したが、その他のｅラーニングコンテンツのアクセス件数は減少した。今後も利用率向上のため、コンテンツの充実を図る。

## 学習情報の収集・提供事業

［事業目的及び概要］

県民の学習活動を支援することを目的として、各種学習情報を収集し、インターネットにより県民に提供するとともに、サーバ・パソコン機器等を維持管理する事業である。

［事業内容及び結果］

(1) 学習情報の収集・提供

4 情報（学習機会、指導者人材、団体・サークル、視聴覚教材）の収集・提供を行った。

| | | |
|---|---|---|
| ・登録データ件数 | 学習機会情報 | 1,568 件 |
| | 団体・サークル情報 | 1,087 件 |
| | 指導者人材情報 | 1,411 件 |
| | 視聴覚教材情報 | 19,892 件 |
| | 計 | 23,958 件 |
| ・ありすネットアクセス回数 | 学習機会情報 | 5,147 回 |
| | 団体・サークル情報 | 1,136 回 |
| | 指導者人材情報 | 1,451 回 |
| | 視聴覚教材情報 | 1,305 回 |
| | 全情報 | 615 回 |
| | 計 | 9,654 回 |
| ・ありすネット検索回数 | 学習機会情報 | 1,651 回 |
| | 団体・サークル情報 | 677 回 |
| | 指導者人材情報 | 983 回 |
| | 視聴覚教材情報 | 1,473 回 |
| | 全情報 | 366 回 |
| | 計 | 5,150 回 |

(2) サーバ・パソコン機器等維持管理
　青森県学習情報提供システム用サーバ・パソコン機器等の維持管理を行った。

［成果と課題］

学習機会情報が、前年度の登録件数から増加したことにより、これを反映するようにアクセス回数、検索回数も増加した。今後も登録情報件数を維持しつつ、利用者側の情報登録方法を簡易にするなど、利便性の向上を図る。

## 青森県視聴覚ライブラリー運営事業

［事業目的及び概要］

16㎜フィルムをはじめとする県内の貴重な映像資料を収集・保管するとともにその活用を図り、県内の視聴覚教育の振興発展に寄与することを目的として、「青森県視聴覚ライブラリー」を設置し、運営する事業である。

［事業内容及び結果］

(1) 生涯学習社会の充実を図る基礎資料を得るための調査・研究
(2) 社会教育及び県民の学習活動のための研修施設・視聴覚機材の提供
(3) 教育メディア利用セミナーの開催
　○開 催 日：11/21(金)
　○会　　場：県総合社会教育センター
　○趣　　旨：教育の場における視聴覚メディアや情報通信メデイアの利用促進と、その効果的な利用方法を研究することを目的とし、教育関係者の教育メディア利用に対する知識を高めるとともに、学校及び社会教育におけるメディア利用学習や地域の視聴覚ライブラリー・センターの運営に関わる諸問題等について研究協議を行う。
　○対　　象：地域視聴覚ライブラリー・センター職員、指導主事、社会教育主事及び教育委員会の関係職員、公民館等社会教育施設の職員、視聴覚教育担当の小学校・中学校・高等学校の教員
　○参加人数：30名
　○内　　容：開会式
　　主催者挨拶　県総合社会教育センター　所長　山本　馨
　　（県視聴覚ライブラリー連絡協議会　会長）
　　基調講演　演　題：「社会教育におけるタブレット端末の教育利用と視聴覚ライブラリーの今後の可能性について」
　　講　師：常葉大学教育学部　教授　吉田　広毅
　　研究発表　演　題：「各地域視聴覚ライブラリー実態調査報告と先進事例紹介」
　　発表者：県総合社会教育センター　社会教育主事　宮野　孝晶
　　研究協議　協議題：「視聴覚ライブラリーの在り方について」
　　閉会式
　　閉会宣言　県総合社会教育センター　副参事　田中　洋一
　　（県視聴覚ライブラリー連絡協議会　事務局長）
(4) 青森県視聴覚ライブラリー連絡協議会への加入
(5) 視聴覚教材の購入　7本

［成果と課題］

教育メディア利用セミナーは、視聴覚ライブラリーが果たす役割とタブレット端末の教育利用に焦点を当てて開催した。記念講演では、吉田教授より、社会教育におけるタブレット端末等を活用した地域学習資源の活用について御講演いただき、参加者から好評を得ることができた。また、研究発表では、県内の視聴覚ライブラリーの現状と視聴覚ライブラリーの可能性について報告された。タブレット端末等を活用した教育利用の実践例は、参加者から好評を得ることができ、今後、学校教育及び社会教育の現場で活用されていくことが期待される。今回のセミナーには、学校教育関係者も多数参加しており、本セミナーの必要性を再認識することができた。

## ボランティア関係機関職員養成講座

［事業目的及び概要］

ボランティア活動支援機関担当者の専門性向上等を目指した研修を行うとともに、福祉と教育の各分

野のボランティア活動支援機関の担当者が一堂に会する会議を開催し、情報共有や交流を通して、本県のボランティア活動の推進及び充実とネットワークの強化を図る事業である。

**［事業内容及び結果］**

(1) 対象　各市町村教育委員会ボランティア担当者、各市町村ボランティアセンター担当者（社会福祉協議会）、各市町村ボランティア連絡協議会代表等

(2) 参加者総数　116 名（講座 86 名、会議 30 名）

(3) 内容

ア　講座

○場所　県総合社会教育センター

| 回 | 開催日 | 内　　容 |
|---|---|---|
| 1 | 7/25（金）<br>参加者 34 名 | 【講義】「生涯学習とボランティア」<br>講師　青森明の星短期大学　教授　石田　一成<br>【講演】「障がい者から見たボランティア」<br>講師　特定非営利活動法人 C-FLOWER　理事長　佐藤　涼 |
| 2 | 8/21（木）<br>参加者 25 名 | 【講義・演習】「ボランティア活動支援者に必要なコミュニケーション能力」<br>講師　八戸学院短期大学　学長補佐　教授　茂木　典子 |
| 3 | 9/19（金）<br>参加者 27 名 | 【講義】「人と人を繋ぐためのボランティア活動支援」<br>講師　ねぶたの家　ワ・ラッセ　施設事業部長　工藤　正之<br>【講演・演習・交流会】<br>「改めて地域のつながりづくりについて考える<br>～人をつなぐ極意とは～」<br>講師　弘前大学生涯学習教育研究センター　講師　深作　拓郎 |

イ　会議

| 地区 | 開催日 | 会　　場 | 内　　容 |
|---|---|---|---|
| 下北 | 5/23（金）<br>参加者 9 名 | むつ来さまい館 | ・ボランティア関係機関養成講座について<br>・今年度の取組や活動について<br>・県総合社会教育センターからの情報提供<br>・情報交換 |
| 津軽 | 6/13（金）<br>参加者 9 名 | 県総合社会教育センター | |
| 南部 | 6/19（木）<br>参加者 12 名 | 八戸市総合福祉会館 | |

**［成果と課題］**

ボランティア関係機関の職員が、研修を通して専門性の向上を生かした業務ができるよう、基礎的な学習を含む研修を行うとともに、会議を通じてネットワークの強化を図ることができた。また、会議では、情報共有や情報交換をしていく中で、ネットワークの構築・強化を図ることができた。

今後は引き続き教育委員会・首長部局・県社会福祉協議会と連携を取りながら本県の社会参加活動の推進及び充実につなげていく必要がある。

# 県立図書館

## 近代文学館　特別展開催

**［事業目的及び概要］**

青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、特定のテーマに添った特別展を開催するとともに、内容をよりわかりやすくかつ理解を深めることを目的として、青森県の近代文学について著名な講師による講演会、シンポジウム等や県内有識者による文学講座などを開催する事業である。

**［事業内容及び結果］**

(1) 特別展「三浦哲郎」

○会期：7/12(土)～9/7(日)

○場所：近代文学館企画展示室

○内容：　三浦哲郎（1931～2010　八戸市）は、1961 年小説「忍ぶ川」で芥川賞を受賞。以後、「拳銃と十五の短篇」で野間文芸賞、「少年讃歌」で日本文学大賞、「白夜を旅する人々」で大佛次郎賞、「じねんじょ」と「みのむし」で川端康成賞、「みちづれ」で伊藤整文学賞を受賞。

短篇の名手としても知られ、多くの読者を得ている。平成 22 年の逝去まで執筆の意欲を持ち続けた三浦の生涯と文学活動を紹介する展示を行った。

○展示資料：370 点(原稿 18 点、自筆資料 1 点、書簡 26 点、書画 22 点、印刷物 17 点、図書 159 点、雑誌 45 点、写真 8 点、視聴覚資料 5 点、遺品 69 点)

○来場者数：4,743 名

(2) 特別展「三浦哲郎」第 1 回文学講座

○会期：7/27(日)

○場所：県総合社会教育センター大研修室

○内容：講演 「私小説の新しさ―三浦哲郎の文学」　講師　富岡幸一郎（鎌倉文学館館長）

朗読 「朗読で味わう三浦文学」(「忍ぶ川」ほか)　出演　鳴海征子（元青森放送アナウンサー）

○来場者数：68 名

(3) 特別展「三浦哲郎」第 2 回文学講座

○会期：8/17(日)

○場所：県立図書館集会室

○内容：講演 「短篇小説―三浦文学の魅力」　講師　森林　康（三浦哲郎文学顕彰協議会副会長・元八戸市教育委員会教育長）

鼎談 「文学ビデオ『「忍ぶ川」の舞台をたずねて』～撮影同行秘話～」

講師　米田省三（十和田市教育委員会教育長・元青森県近代文学館室長）

櫛引洋一（青森県立板柳高等学校長・元青森県近代文学館室長）

サトウユウジ（写真家）

○来場者数：72 名

(4) 日曜講座

○日時：8/31(日)

○場所：県立図書館研修室

○内容：講演「青森県近代文学館と三浦哲郎」　伊藤文一（青森県近代文学館総括主幹）

○来場者数：27 名

(5)「三浦哲郎パネル展」

○期間：10/8(水)～12/2(火)

○会場：五戸高校・名久井農業高校・田名部高校・五所川原工業高校・八戸東高校・黒石高校・青森西高校・青森県高等学校総合文化祭文芸部門

○内容：特別展の内容を 12 枚のパネルに再構成し、各会場で展示した。

○来場者数：12,986 名

**［成果と課題］**

芥川賞受賞作「忍ぶ川」の志乃のモデルである徳子夫人、三浦哲郎の幼なじみ立花義康氏夫人京子氏をはじめ、三浦哲郎文学顕彰協議会、三浦哲郎の御友人、親交のあった方々、八戸市、八戸市内の高校・中学校、研究者の方、三浦文学を愛する方々の協力を得て、展示資料点数 370 点を数える展覧会となった。三浦哲郎が八戸市出身ということから、県南からの来館者が多かった。また県外からこの特別展のため来館したという方も多くいた。何時間もかけて原稿や遺品、解説パネルをじっくりと御覧になる方が非常に多く、根強い「三浦ファン」の存在を実感した。２回にわたる文学講座もそれぞれ盛況であった。

今回の成果を今後の調査・研究に生かし、資料の充実につなげていくとともに、より魅力的なイベントを企画し、案内や周知の方法を工夫し、青森県の文学活動の環境整備につなげていくことが課題である。

## 近代文学館　企画展開催

**［事業目的及び概要］**

青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、近代文学館が収蔵している資料を展示・公開する企画展を開催する事業である。

**［事業内容及び結果］**

(1) 「棟方志功と青森の文学」

○会期：4/26(土)～6/8(日)

○場所：近代文学館企画展示室

○内容：　国内外で多くの賞を受賞し「世界のムナカタ」と呼ばれた棟方志功（1903～1975　青森市）は、1936年には佐藤一英の詩を版画化した「大和し美し」を発表。1938年「善知鳥板画巻」で新文展特選。独自の世界を築き、文化勲章を受章した。青森出身の作家との交流に由来する資料を多数展示し、棟方志功と青森の文学の関わりについて紹介した。
○展示資料数：166点
○来場者数：2,368名

(2)「成田千空」
○会期：10/11(土)～11/24(月)
○内容：　成田千空（1921 ～2007　青森市）は、1946年に中村草田男の俳誌「萬緑」に参加。1953年、第一回萬緑賞を受賞した。作品を北の大地より生み続け、全国俳壇に「東北に千空あり」と称えられた成田千空の生涯とその作品を紹介した。
○場所：近代文学館企画展示室
○展示資料数：237点
○来場者数：2,792名

(3)「開館20年記念　青森県近代文学館名品展」
○会期：1/17(土)～3/15(日)
○内容：　青森県近代文学館の開館 20 年を記念し、近代文学館で収蔵している資料の中から、特に貴重なものを展示した。
○場所：近代文学館企画展示室
○展示資料数：133点
○来場者数：2,226名

**［成果と課題］**

「棟方志功と青森の文学」では、展示全体を通して、棟方志功は青森の文学を愛し、陰で支え続けた人物だったということが浮き彫りになった。また、初公開資料である「善知鳥」題字と表紙絵からは、サービス精神が旺盛で気遣いの深かった志功の人物像が浮かび上がった。

「成田千空」では、様々な年齢層の来館者に千空の作品とその作品を生みだす土壌となった青森県の文化活動について伝えることができた。また、この展覧会を契機に各地で千空の業績を見直し、顕彰する企画が催され、千空研究が進むこととなった。

「開館 20 年記念　青森県近代文学館名品展」の、特に「知られざる名品」の展示では、県出身ではない著名な文学者と青森県との意外な接点を紹介することができ、多くの方に青森県の文学世界の奥行きの深さを実感して貰うことができた。

企画展開催を機に、展示に関わる資料の整理・調査を進めるとともに、効果的な紹介の仕方を考究し、青森県の文学に関する県民の理解を一層深めることが課題である。

## アウトリーチサービス推進事業

**［事業目的及び概要］**

重度心身障害者や要介護高齢者等、来館による図書館利用が困難な利用者に対して、自宅等に居ながらでも図書館資料を利用できる環境をつくることを目的として、宅配による図書の貸出を行う事業である。

**［事業内容及び結果］**

○登録者数：31名（うち新規登録者数2名）
○貸　　出：件数233件　　冊数954冊

**［成果と課題］**

県立図書館に直接来館することが難しい障害者や高齢者等に対して、サービスを提供することができた。

利用者が求める図書や資料を的確に探し出し、提供することが課題である。